



『ニ平方メートルの世界で』
前田海音／文
はたこうしろう／絵
小学館

闘病の少女の思いが絵本に

北九州市主催「第11回子どもノンフィクション文学賞」で小学生の部大賞を受賞した少女の文章が絵本になりました。

脳神経の難病を抱える札幌市の小学5年前田海音（みおん）さんが闘病体験をつづったものです。文章は海音さん、絵を担当したのは絵本作家のはたこうしろうさんです。

ベッドの上に立ち、まっすぐ前を見て草原を疾走する海音さんを描いた表紙画は、まさにこの絵本の内容を象徴しています。海音さんの文章は、力強い生命力にあふれ、まっすぐ未来をみつめています。海音さんが最も伝えたかったという「ある出来事」が、絵本ならではの 방법으로、はたこうしろうさんによって描かれるページが特にすばらしいので、ぜひごらんください！



水巻町図書館は2000年に開館しました。この9月で、21年になります！
図書館のバースデー月間の催しとして、イベントスタンプラリーをします。
9月のおはなし会などのイベントに参加してスタンプをためるとプレゼントがもらえますよ。おはなしを楽しむイベントに参加してみませんか？

水巻町図書館・歴史資料館

よむぞうだより

令和3年8月号 No. 176号

8月行事案内

イベントは視聴覚ホールで

予定の変更や、入場の制限をさせていただく場合があります。ご了承ください。

おはなし会

- 8月7日(土) たんぼぼ 14:00~
- 8月14日(土) ともしびの会 11:00~
- 8月21日(土) ぶぶら 14:00~
- 8月22日(日) 図書館スタッフ 14:00~
- 8月28日(土) ピノキオ文庫 11:30~

赤ちゃんとおはなし会

- 8月11日(水) 図書館スタッフ 11:00~

絵本ミュージカル

- 8月14日(土) 14:30~

タミー先生と英語で遊ぼう

- 8月21日(土) 11:00~

折り紙教室

- 8月28日(土) 折り紙ボランティア水巻 13:30~

10人を超えた場合、2部制になることがあります

ピアノ演奏 @エントランスホール

- 第1・3水曜日 11:30~ (CHIKAさん)
- 土曜日 12:00~ (渡邊博さん)

映画会 視聴覚ホール 無料

親子 de シネマ 図書館 de シネマ



『忍たま乱太郎の宇宙大冒険』

8月15日(日)15時~
上映時間 50分



『ハルをさがして』

8月17日(火)11時~
上映時間 1時間33分

8月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7★
8	9	10	11★	12	13	14★
15★	16	17★	18	19	20	21★
22★	23	24	25	26	27	28★
29	30	31				

9月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4★
5	6	7	8	9	10	11★
12	13	14	15★	16	17	18★
19★	20	21	22	23	24	25★
26★	27	28	29	30	31	

★マークは、図書館で催しのある日です。

開館時間 午前10時 ~ 午後6時

〒807-0012 福岡県遠賀郡水巻町古賀3-18-1

TEL 093-201-5000(図書館)

TEL 093-201-0999(歴史資料館)

は休館日です。

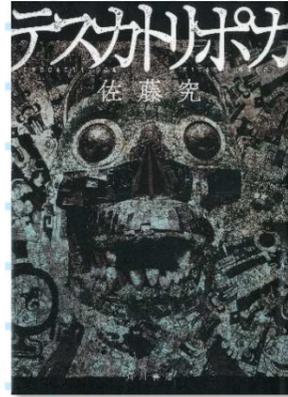
FAX 093-201-0995(共通)

http://www.library.mizumaki.fukuoka.jp

芥川賞・直木賞ダブル受賞は 10 年ぶり

第 165 回芥川・直木賞（日本文学振興会主催）の選考会が7月14日、東京・築地の料亭「新喜楽」で開かれ、芥川賞に石沢麻衣さん（41）の「貝に続く場所にて」（群像6月号）、李（り）琴峰（ことみ）さん（31）の「彼岸花が咲く島」（文学界3月号、文藝春秋）、直木賞に佐藤究（きわむ）さん（43）の「テスカトリポカ」（KADOKAWA）と、澤田瞳子（とうこ）さん（43）の「星落ちて、なお」（文藝春秋）が選ばれました。

芥川賞と直木賞にそれぞれ2作品が選ばれたのは10年ぶり。佐藤究さんは福岡県出身。受賞作の「テスカトリポカ」は、山本周五郎賞も受賞しています。



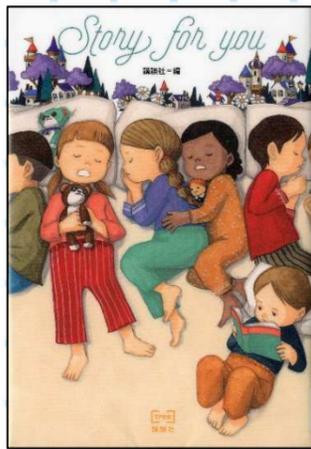
テスカトリポカ
佐藤究／著
KADOKAWA

スタッフ注目の一冊 一般書

62名の作家が書いた物語への誘い

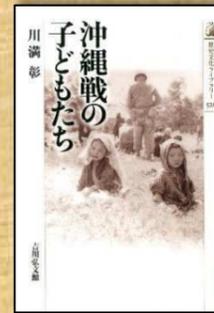
Story for you 講談社／編 講談社

コロナ禍にあっても、少しでも物語を読んで楽しい時間を過ごしてほしいという趣旨から生まれた短編集です。さまざまなジャンルで62名の作家の書きおろしを収録。お話の舞台は、通学路や病院の片隅、戦乱の世から異世界まで子どもから大人まで楽しめる一冊です。その中でも、私のおすすめする作品が一穂ミチさんの「玉ねぎちゃん」です。これまで馴染みのなかった言葉「不要不急」がこの物語のキーワードです。主人公「わたし」が直面する不安や理不尽、そして父親への苛立ちや甘えといった揺れ動く心模様の描写に心を鷲掴みにされます。「わたし」が数年経った時に、今の「わたし」を笑って振り返れますように。（スタッフ M）



8月展示架は 沖縄戦と子どもたち

沖縄戦で亡くなった人は両軍の兵士だけでなく、一般住民を合わせて20万人とされています。1923人の学徒（中学校以上の学生・生徒）が動員され、981人が亡くなったとも。来年本土復帰50年を迎える沖縄で、2021年4月12日、「ひめゆり平和記念資料館」（沖縄県糸満市）がリニューアルオープンしました。沖縄戦とはどのような戦争だったのかを、沖縄に住む一人の少年の詩をモチーフに、展示架で考えてみました。どうぞ手に取ってご覧ください。



沖縄戦の子どもたち
川満彰 著
吉川弘文館



戦争体験を「語り」・「継ぐ」
大石学 監修
学研プラス



太陽の子
灰谷健次郎 著
KADOKAWA

ふうちゃんの両親は神戸の下町で琉球料理の店を営んでいます。明るい人々に囲まれ育ったふうちゃんですが、おとうさんが心の中に「沖縄と戦争」という苦しみを持ち続けていることが心配でなりません。



夏の宿題は図書館で 課題図書&自由研究

夏の宿題は進んでいますか？

図書館では、今年も読書感想文対策として課題図書を展示架2へ置いています。自由研究の本も多くそろっています。

夏休み、図書館をじょうずに使って、宿題にとりこんでみませんか？調べるための本探しのお手伝いはおまかせください。

